

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在地	東京都台東区台東 4-16-8
施設名	ミアヘルサ保育園ゆらりん新御徒町

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

生活の中で「音」と触れ合う機会が多く、歌や音楽、音の鳴る玩具に興味を示していたため。

### 2. 活動スケジュール

普段の保育の中で手遊びや歌、リズム体操を取り入れる。それぞれ音の鳴るおもちゃをしっかりと手に握って遊べるようになったころ、木製のマラカスを持って歌うようになる。

11月に親子ふれあい遊びの行事があったので、それに向けて少しずつ音楽に合わせて音を鳴らすことを経験していく。

11月8日親子ふれあい遊びの行事の中で保護者や保育者と一緒に音を鳴らすこと、音を聴くことを楽しむ。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 木製のマラカス
- ・ 肉声 ・ 音源 (CD プレイヤー)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

保護者や保育者と一緒に「おもちゃのちゃちゃちゃ」の曲に合わせて体を動かして踊ったり、木製のマラカスを持って音を鳴らしたりして遊ぶ。まだマラカスを握れない児はマラカスの音を聴いて楽しむ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

まず何も持たずに「おもちゃのちゃちゃちゃ」の歌を繰り返したい、リズムに合わせて体を揺らしたり手をたたいたりする姿が見られるようになってからマラカスを出した。マラカスを手に持つとすぐに音を鳴らして楽しむ児もいればまずは手のひらに乗せてじっくり観察する児などさまざまな姿が見られた。保育者が歌に合わせてマラカスを振ると同じように真似して音を鳴らす姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

今回はマラカスを使って「音」をテーマにした活動を行ったが、子どもたちの生活の中には「音」と触れ合う機会が多くあると感じた。緊急車両のサイレン音、雨粒の音、風の音など生活しているなかで自然に耳に入る音にも気づけるように声をかけていった。マラカスは“特別感”があり、普段の手遊びや歌を歌うときよりも子どもたちが喜んで活動に参加している姿が見られてよかった。今後も取り入れていきたい。